

いそファミ通信

7月号



今の時期、どうしても避けられないのが虫さされ。夏の虫といえば蚊やブヨ、蜂などが代表的ですが、刺されると痛み、痒みが苦痛です。中でも蚊には一度は誰もが刺された経験があると思いますが、同じ場所においても刺されやすい人と、そうでない人がいますよね。いったいどんな人がさされやすいのでしょうか・・・？

蚊にさされやすい人とは？

同じ場所にいるのに蚊に刺される人と刺されない人がいます。この違いは二酸化炭素の排出量です。蚊は二酸化炭素によってくる習性があるため、二酸化炭素を多く出している人。たとえば体温の高い人やアルコールを飲んだ人、汗かきな人などが刺されやすいようです。子供は大人よりも体温が高く、汗もかきやすいことが多いので要注意です。

虫にさされてしまったら・・・

蚊やブヨに刺された場合、刺された皮膚に、蚊やブヨの唾液が付着することによるアレルギー反応で痒みがおきます。虫に刺されたときは、まずしっかり洗い流すこと。痒みが強ければ濡れタオルなどでしっかり冷やしましょう。そのあとステロイド剤の入った塗り薬を塗るといいでしょう。蜂の場合は、刺された所の皮膚の上に蜂の針が残っていないか良く見て、針があった場合はピンセットなどで針を抜きましょう。そして、刺されたところは水道水など流水で綺麗に流して下さい。腫れがひどい場合は抗ヒスタミン薬やステロイドの内服が必要となる場合があります。また、2度目以降にさされると、前回刺されたときの蜂の毒に対する抗体が体内に出来ているため、体内の抗体が毒素と激しく反応しアナフィ

ラキシーと呼ばれるショック症状をおこすことがあります。蜂にさされたときは、素早く医師の受診をしてください。

虫除けの基本

山などに出かける時、畑や庭仕事の時は、長袖、長ズボンが基本です。ただし、洋服の色に注意して下さい。スズメバチやミツバチは、黒いものによってくるので、色の濃いものは着用しないこと。また、強い香りによってくる場合もあるので、香水や匂いの強いボディケア用品は使用しないほうがいいでしょう。

虫除けスプレーを使用するとき、薬剤を吸い込んでしまわないか心配ですよね。そんなときは、一度自分の手にスプレーをしてから手で塗るようにすると、吸い込む心配はありません。

こんなことにも要注意！！

とびひ（伝染性膿痂疹）

あせも、虫刺され、湿疹などをひっかいたり、転んでできた傷に二次感染を起してできる皮膚の感染症です。とびひには、水疱（みずぶくれ）ができて、びらんをつくることが多い水疱性膿痂疹と、炎症が強く、痂皮（かさぶた）が厚く付いた痂皮性膿痂疹があります。治療は抗生物質の入った軟膏と抗生物質の内服薬を併用し、原因菌を退治します。また、他への感染を防ぐためにガーゼで患部を覆うことが大切です。

小児ストロフルス

生後数か月から1～2才頃の小児に特有な、虫さされが原因でおこる皮膚の過敏症です。虫に刺されたところが赤くふくらみ、強いかゆみがあります。水疱ができ、やがて褐色の小さなシコリが残ります。治療は抗アレルギー剤が主ですが、二次性細菌感染予防のために抗生物質が処方されることもあります。